

# 第4回 江川流域づくり支援会議(第二期)

## 資料2

平成29年 9月19日

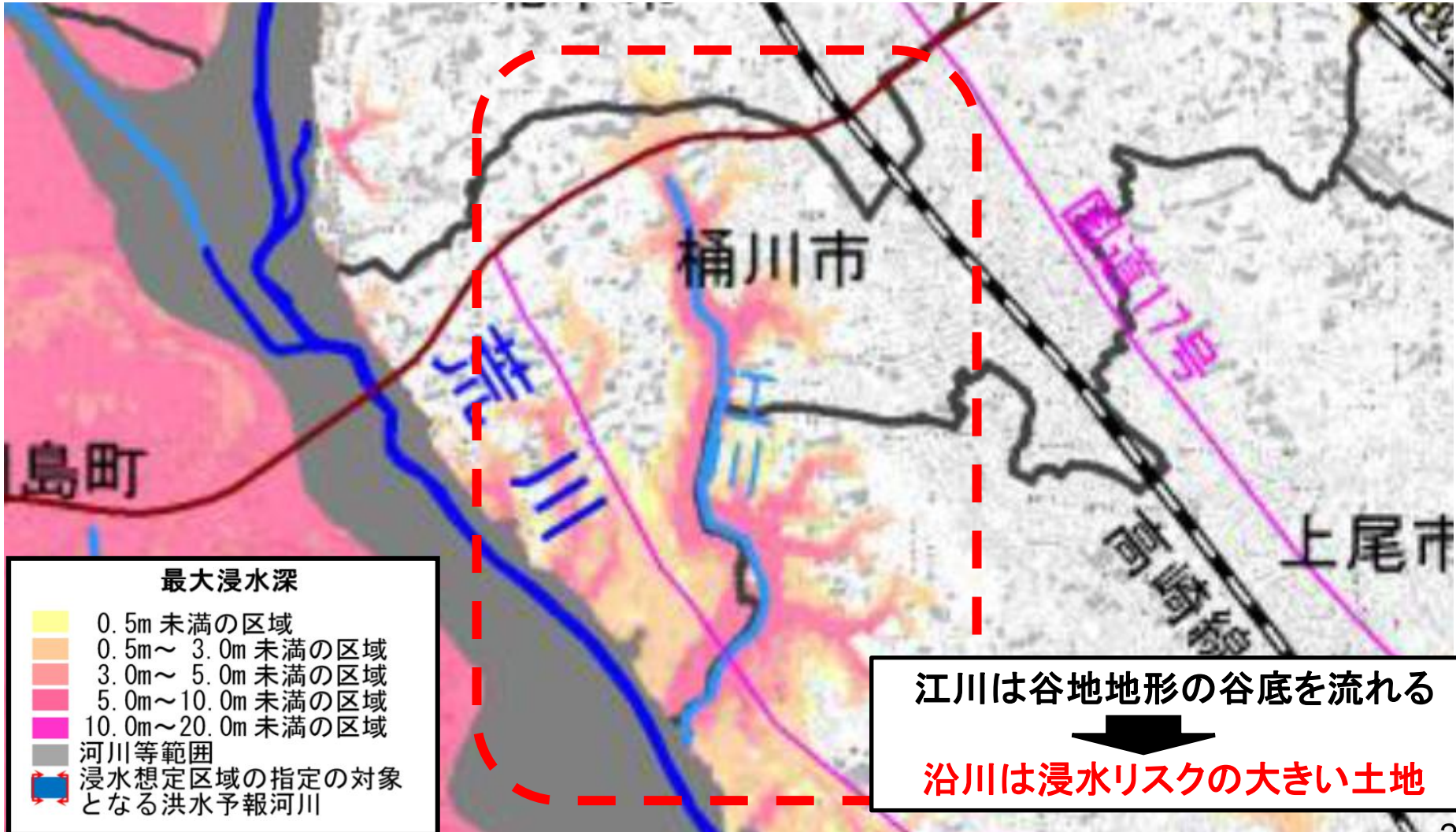
## 第4回会議に向け整理した事項

- 1 沿川の土地利用状況の確認  
(既存の遊水機能の保全について)
- 2 中流部と下流部の治水バランス
- 3 江川中流部の整備イメージ

# 1 沿川の土地利用状況の確認

※国土交通省 洪水浸水想定区域図(想定最大規模等)  
荒川水系荒川 より抜粋・引用

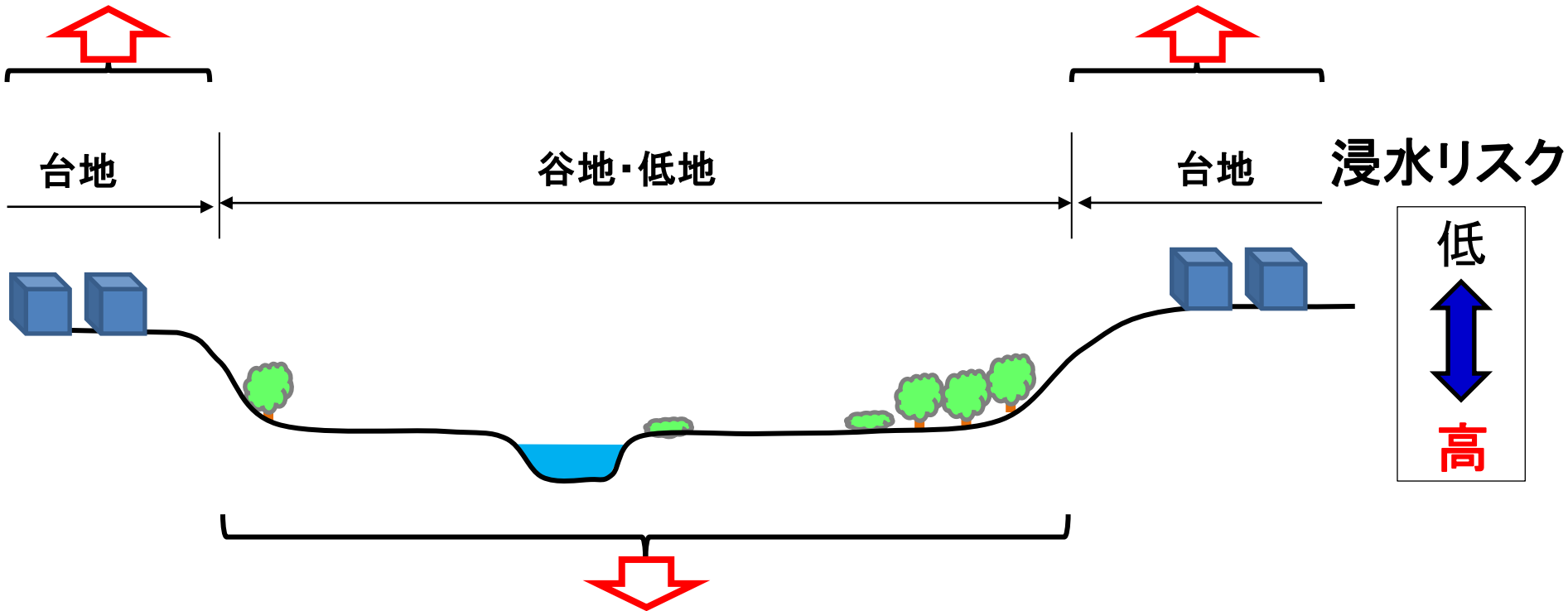
## 荒川 洪水浸水想定区域図(想定最大規模(72時間総雨量632mm))



# 1 沿川の土地利用状況の確認

洪水(浸水)リスクに応じた土地利用のあり方(イメージ)

浸水を許容する事が難しい土地利用(住宅地など)



浸水を許容できる土地利用(農地・緑地など)

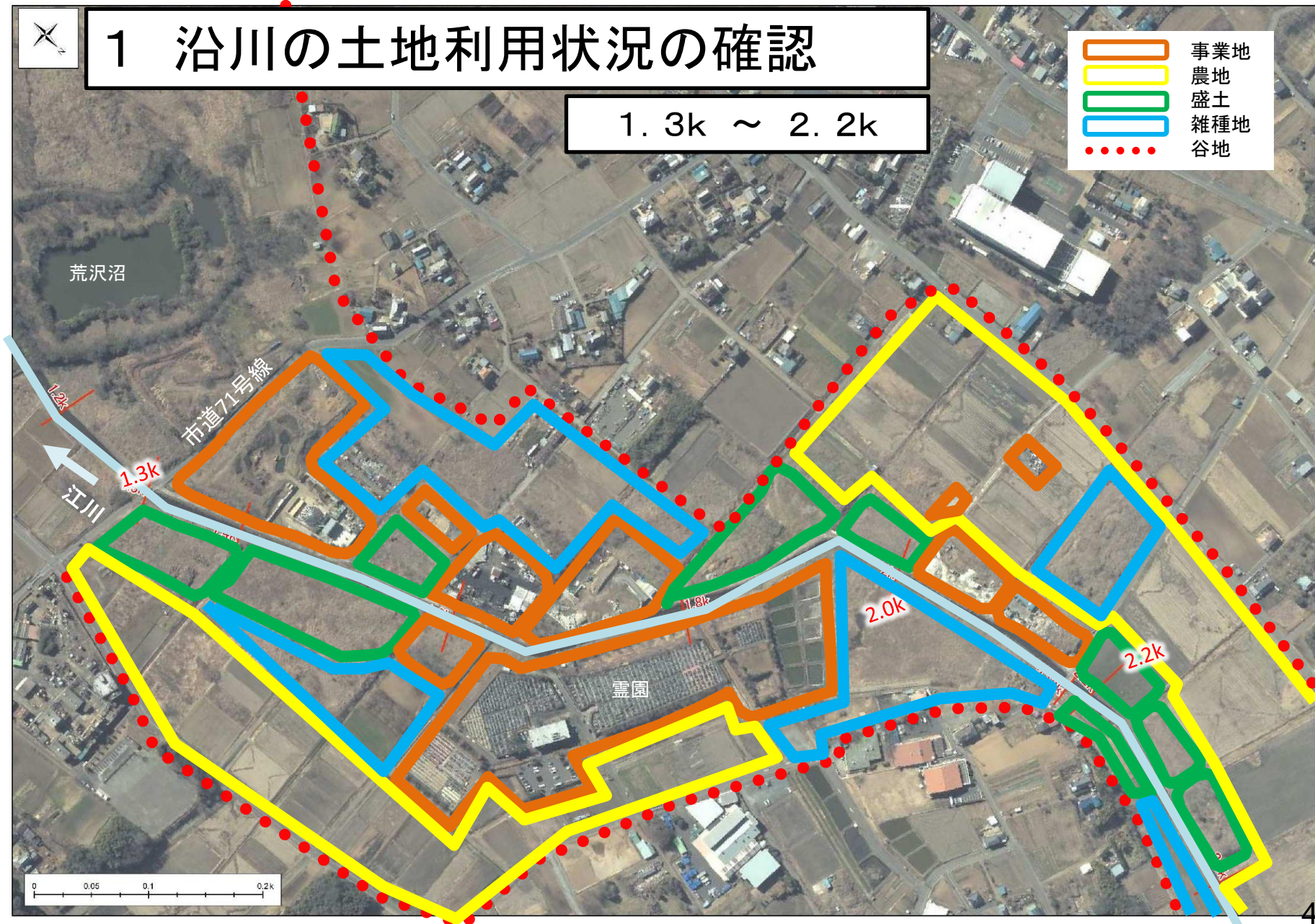




# 1 沿川の土地利用状況の確認

1.3k ~ 2.2k

- 事業地
- 農地
- 盛土
- 雑種地
- 谷地

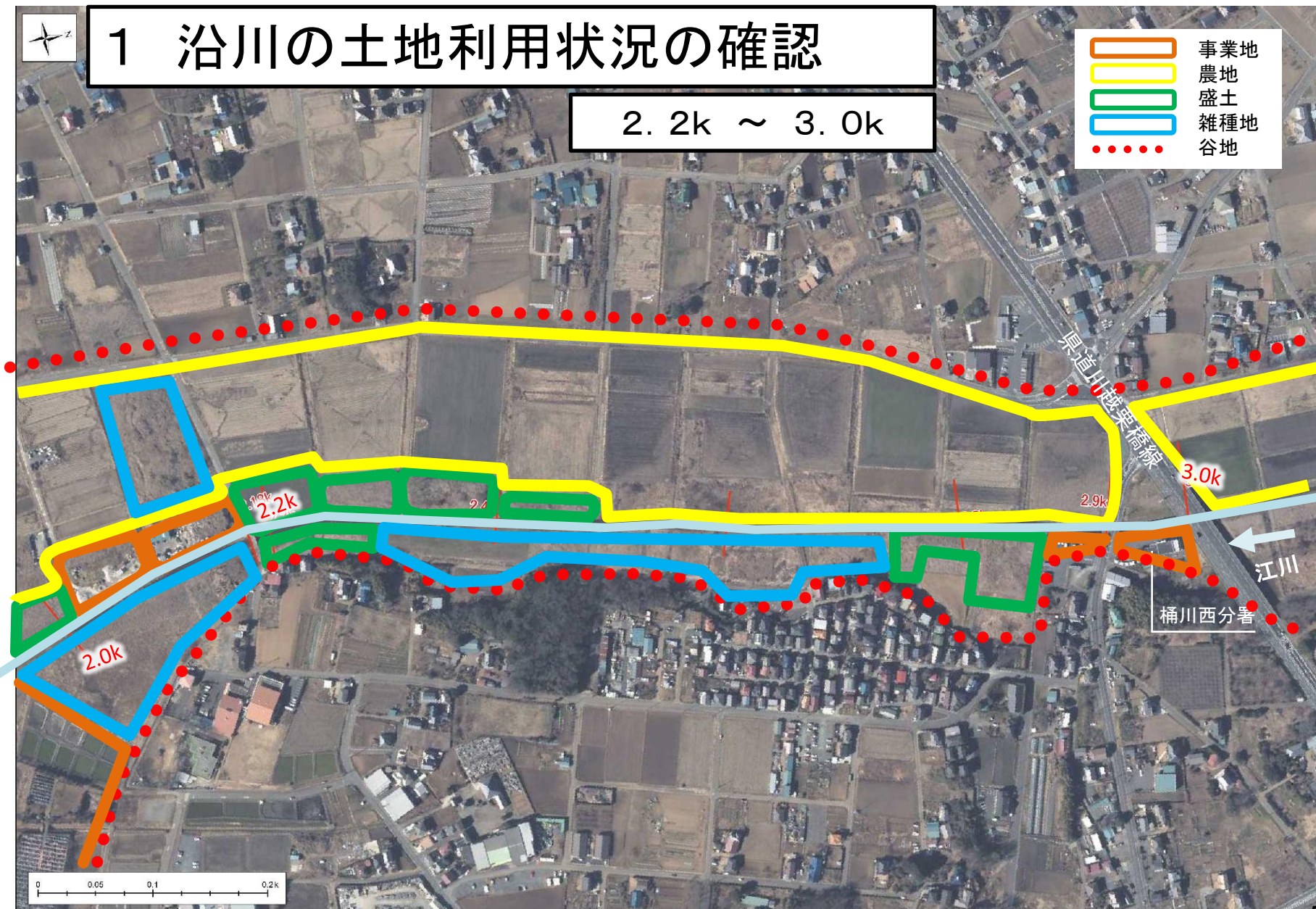




# 1 沿川の土地利用状況の確認

2. 2k ~ 3. 0k

- 事業地
- 農地
- 盛土
- 雑種地
- 谷地

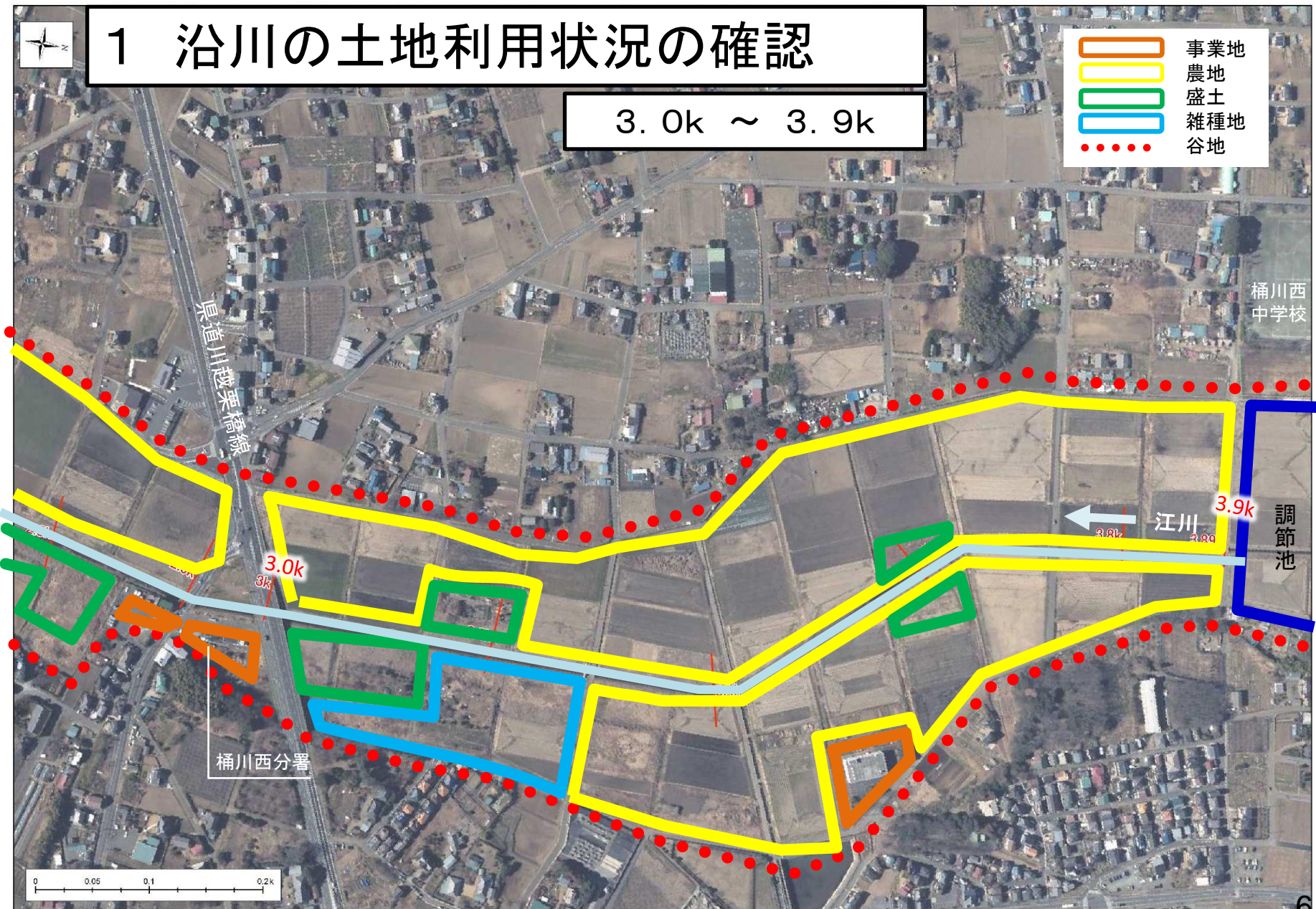




# 1 沿川の土地利用状況の確認

3.0k ~ 3.9k

- 事業地
- 農地
- 盛土
- 雑種地
- 谷地





# 1 沿川の土地利用状況の確認(まとめ)

2. 0k~3.9kの江川沿川では、遊水機能を有している農地(水田)が多く存在している。


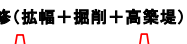


1. 3k~2.0kの江川沿川には、事業地や盛土が多い。



## 2 中流部と下流部の治水バランス

中流部の河道拡幅により、  
下流部の洪水リスクが増大

	上流部	中流部	下流部	荒川との合流点
ケース1	現況の地形	現況の地形  改修(拡幅+掘削)   改修(拡幅+掘削+高築堤) 	現況の地形	現在の河川整備計画で 改修
ケース2	現在の河川整備計画で 改修 (調節池+河川)			
ケース3				
ケース4				

中流部をケース3で改修を行った場合

- 中流部の浸水区域は変わらないが、浸水深は減少する。
- 一方、下流部の浸水区域は変わらないが、浸水深は増大する。

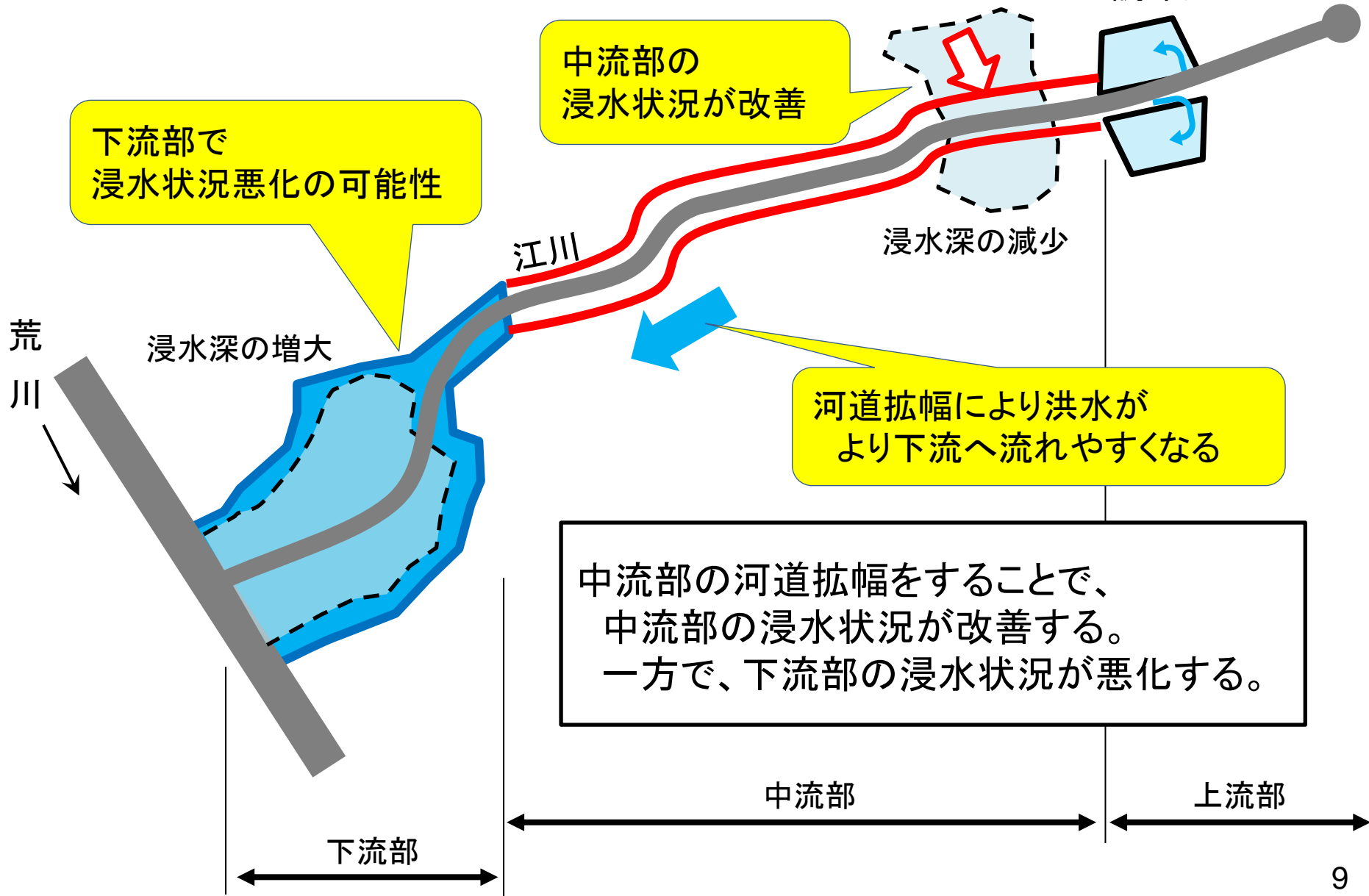
ケース2



ケース3

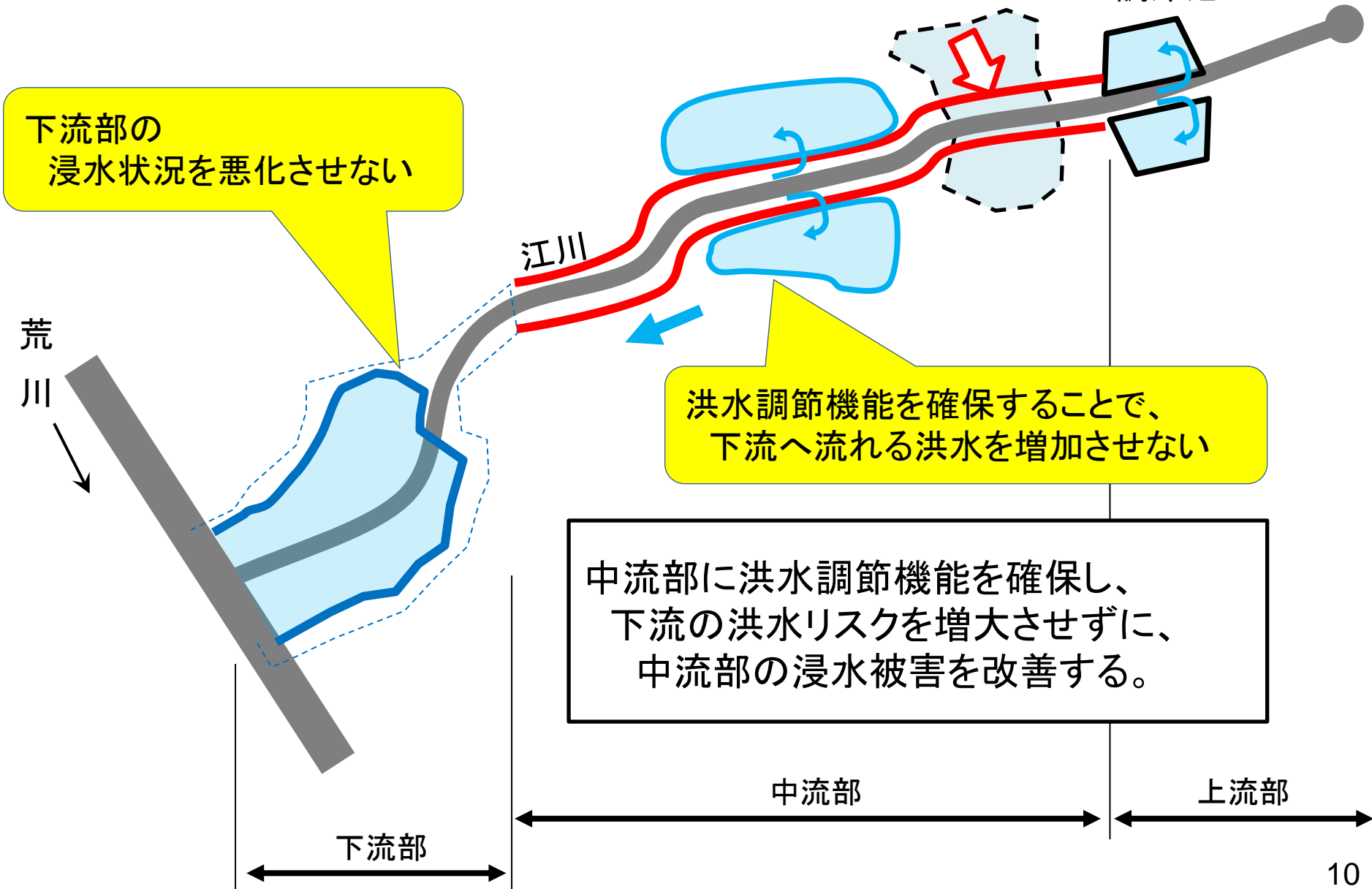


中流部の河道拡幅による下流部の洪水リスク増大(イメージ)





中流部と下流部の治水バランスに配慮した方策(イメージ)



### 3 江川中流部の整備イメージ

- 1 沿川の土地利用状況の確認
- 2 中流部と下流部の治水バランス



#### 江川中流部の整備イメージ

- ①河道拡幅・掘削を基本とする。(原則高築堤はしない)
- ②江川沿川(2.0k~3.9k)に存在する農地(水田)が持つ遊水機能の活用を検討する。
- ③中流部に洪水調節機能を確保し、中流部と下流部の治水バランスに配慮した対策を行う。



# 江川中流部の整備イメージ図(案)

